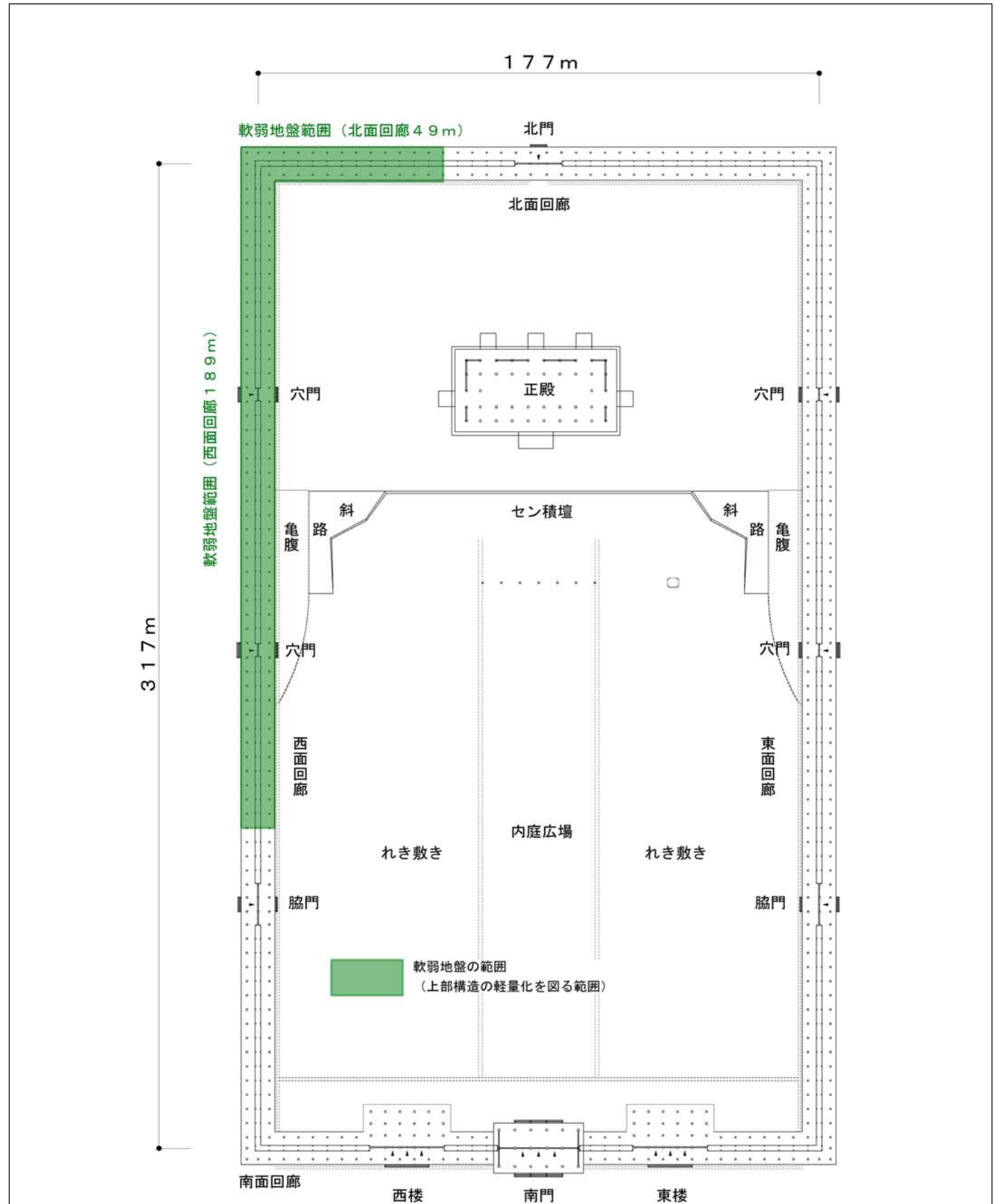


伝統工法・材料による復原範囲について

○伝統工法・材料の使用方針と想定内容

- 遺構の養生を第一とし、地区全般に渡って上部構造の軽量化を図る。**
 - ・基壇の工法は、版築を用いず、RC基礎とする。
(既存事例) 宮跡内における従前の全ての復原建物
 - ・回廊築地の工法は、原則、版築を用いるが、遺構の高さや地盤状況により、遺構の養生に影響があると判明した場合においては、鉄骨造などすることを検討する。
(既存事例) 築地を版築とした事例 推定宮内省の築地塀
築地を鉄骨とした事例 朱雀門両脇大垣、東院大垣
 - ・瓦葺きの工法は、土葺きを用いず、空葺きとする。
(既存事例) 朱雀門、第一次大極殿正殿
- 西面回廊北寄りの軟弱地盤の範囲については、回廊設置を実現する観点から、必要に応じ、より一層の軽量化に努める。**
- 一方、当該地区は、復原建造物の鑑賞を通じ、往時の歴史・文化を体感してもらう場であることから、その外観(形態意匠)については、現代工法・材料を用いた場合でも、伝統工法・材料を用いた場合と同等なものとなるように努める。**
 - ・回廊築地について、必要に応じ、版築層を表現する、など。
(既存事例) 平城京朱雀大路跡における築地塀
- 既に失われた伝統材料・工法については、意匠に配慮するなどした類似の材料・工法を用いる。**
 - ・石材について、竜山石(黄色)が採掘されなかった場合、その他の凝灰岩を用いる、など。
(既存事例) 朱雀門
- 大量の材料を必要とすることで著しく環境に影響を与える場合については、意匠に配慮した類似の材料を用いる。**
 - ・現在想定していないが、詳細な供給可能調査を行い、その旨が判明した場合。
- 利用者を著しく汚損するおそれがある材料については、管理に配慮した材料の工夫を行う。**
 - ・塗装について、天然顔料に化学塗料を混合する。
(既存事例) 朱雀門、第一次大極殿正殿、東院庭園隅楼
- 本地区の復原整備を着実かつ早期に実現するため、予算状況に応じ、類似材料を用いる。**
 - (既存事例) 東院庭園中央建物・反橋(カナダ檜)
- 国内法で求められる現代の安全基準を満たす措置を行う。**
 - ・建物について、耐震補強を行う。
(既存事例) 朱雀門
 - ・回廊築地について、軟弱地盤範囲を中心に、必要に応じ、ジョイントを設ける。

○(参考)軟弱地盤の範囲(上部構造の軽量化を図る範囲)



※回廊築地の工法は、原則、版築を用いるが、遺構の高さや地盤状況により、遺構の養生に影響があると判明した場合においては、鉄骨造などすることを検討する。